

第4回「災害対策セミナーin神戸」のご案内

講演日時：2011年1月20日（木）13.00～17.00

開催会場：神戸国際会議場（503・504会議室）

主催：（社）日本技術士会近畿支部建設部会

共催：（社）日本技術士会近畿支部・防災研究会
NPO 法人 都市災害に備える技術者の会

後援：（社）日本技術士会建設部会・防災支援委員会

テーマ：防災・減災のネットワークづくり

— 一般市民や民間グループ等のケース —

内容：1995(平成7)年1月17日早暁に発生した「阪神・淡路大震災」からすでに16年がたちました。私達、日本技術士会近畿支部建設部会は直後より、この未曾有の大災害が関係する京阪神地区だけでなく日本全域に対して計り知れない打撃を色んな型で多方面に及ぼし始めている事を予測しかけておりました。ただ当時はその被害の大きさと複雑さなどから原因究明や復興対策などに困難を感じておりました。その最大の原因は6434人もの犠牲者を出した背景となった地質・地盤からその上部の人工的インフラ基盤の予測をはるかに越えた脆弱さでした。然しながら当事者（個人から行政に到るまで）は一生懸命にこの難局打開に取り組みました。その一方で起きていた問題は緊急事態発生時の人や機能の対応でした。とりわけ人と組織の繋がりやその関係のあり方の重要なことをこの震災を機にして私達は教えられました。本部会は震災直後から神戸市、兵庫県などに働きかけて防災の為のネットワークづくりに取り組んできました。この為に私達は震災対策技術展が毎年開催されていることを知って第4回(平成12年1月)からこのシンポジウムに企画、出演などを通じて活動を開始しました。（これは平成19年より大阪会場が設定されたことになったので年に2回）少しハードスケジュールではあるが、私達の目的とする所と一致するので参加し続けております。また大震災が残した教訓は多方面に亘ったが、私達専門技術者だけでなく、各関係者間の通常時、緊急時を通じての連携プレーが不完全だったことです。私達はこの点に着眼し多くの人や組織とも話し合ってきました。今回は一般民間人やグループの代表が一堂に会して防災や減災の為のネットワークづくりについての今までの経験を語り、その上でこれからの活動方向と、問題点などを示して頂こうと考えております。

出講者メンバー（敬称略、順不同）

開会ご挨拶：北村友博（社）日本技術士会 前副会長

パネルディスカッション（講演会形式）

パネリスト：司会 向井通彦 大阪府泉南市長

パネリスト： 渋谷 啓 神戸大学大学院 工学研究科 教授

パネリスト： 諏訪清二 兵庫県立舞子高校 教諭

パネリスト： 村井雅清 被災地 NGO 協働センター 代表

パネリスト： 辻 誠一 西大和6自治会連絡会顧問・上牧町議会議員

パネリスト： 森広浩允 大阪府泉南市いずみ台防災会 会長

コーディネーター：山田俊満（社）日本技術士会近畿支部顧問 建設部会長